

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-19992
(P2001-19992A)

(43) 公開日 平成13年1月23日 (2001.1.23)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
C 1 1 B	9/00	C 1 1 B 9/00	K 4 H 0 5 9
			A
			N
			X
			Z
審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 11 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-196295
(22) 出願日 平成11年7月9日 (1999.7.9)

(71) 出願人 000001959
株式会社資生堂
東京都中央区銀座7丁目5番5号
(72) 発明者 庄司 健
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内
(72) 発明者 廣瀬 清一
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内
(74) 代理人 100092901
弁理士 岩橋 祐司

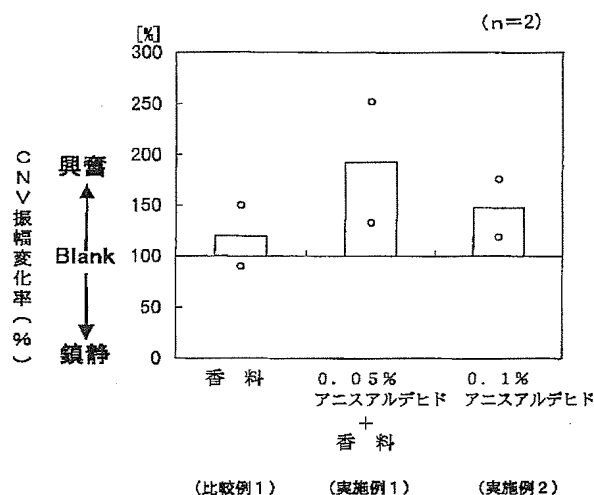
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 高揚剤及び高揚香料組成物

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 本発明は、優れた生理的、心理的高揚効果を発揮する高揚剤及び高揚香料組成物を提供することを目的とする。

【解決手段】 アニスアルデヒドからなる高揚剤。アニスアルデヒド、及びシンナミックアルデヒド、アネトール、オイゲノール、カルボン、ヘリオトロピン、シナモン、スターアニス、クローブ、キャラウェイ、ペッパー、カルダモン、ナツメグから選ばれる1種または2種以上の香料を有効成分とする高揚香料組成物。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 アニスアルデヒドからなる高揚剤。

【請求項 2】 アニスアルデヒドを有効成分とする高揚香料組成物。

【請求項 3】 アニスアルデヒドの含有量が、全組成物中、0.01重量%以上、50重量%以下であることを特徴とする請求項 2 記載の高揚香料組成物。

【請求項 4】 アニスアルデヒドの含有量が、香料成分中 1 重量%以上、50重量%以下であることを特徴とする請求項 2 または 3 記載の高揚香料組成物。

【請求項 5】 請求項 2 乃至 4 のいずれかに記載の香料組成物において、さらにシンナミックアルデヒド、アネトール、オイゲノール、カルボン、ヘリオトロピンから選ばれる 1 種または 2 種以上を含むことを特徴とする高揚香料組成物。

【請求項 6】 請求項 5 記載の香料組成物において、アネトールを含有し、アニスアルデヒドとアネトールの配合重量比が、1:10~1:1であることを特徴とする高揚香料組成物。

【請求項 7】 請求項 5 記載の香料組成物において、オイゲノールを含有し、アニスアルデヒドとオイゲノールの配合重量比が、1:10~1:1であることを特徴とする高揚香料組成物。

【請求項 8】 請求項 5 記載の香料組成物において、シンナミックアルデヒドを含有し、アニスアルデヒドとシンナミックアルデヒドの配合重量比が、1:10~1:1であることを特徴とする高揚香料組成物。

【請求項 9】 請求項 2 乃至 8 いずれかに記載の香料組成物において、さらにシナモン、スターアニス、クローブ、キャラウェイから選ばれる 1 種または 2 種以上の香料を含むことを特徴とする高揚香料組成物。

【請求項 10】 請求項 2 乃至 9 いずれかに記載の香料組成物において、さらにペッパー、カルダモン、ナツメグから選ばれる 1 種または 2 種以上の香料を含むことを特徴とする高揚香料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は高揚剤及び高揚香料組成物、特に気化した有効成分を吸引することにより精神の高揚作用を得られる高揚剤及び高揚香料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】現代社会におけるストレスはうつ病等の心身症として各種生理的、心理的態様で発現するが、一方でこれらの発現は必ずしも病的な状態に至るとは限らず、一般的な経口投与、或いは注射投与等、医師の監督下を前提とする抗うつ剤などの使用には限界があった。また、普通の健常人が日常で高揚効果を得ようとしても前記抗うつ剤等を使用するわけにもいかず、一般的にはコーヒーや煙草の嗜好品に頼ることになるが、これとて

常用すれば体質的に合わない人は体に悪影響がでることになる。

【0003】そこで従来アロマセラピーにおいて覚醒効果があることが伝承的に確認されているある種の天然精油を用いて高揚効果を得る試みもなされており、これは人体に対する投与に際して新たなストレスを付加することがないという利点を有している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、高揚効果を得るために多くの精油からどの精油を選択するかは熟練者の経験的な判断でなされており、その効果も高揚効果と鎮静効果の両方を示すといわれる精油も存在しており明確ではなく個人差も大きかった。この原因はアロマセラピーに用いられる天然精油が複雑な多種多様な成分からなることに起因していると考えられ、高揚剤および高揚香料組成物としては不完全であった。そこでより普遍的な高揚効果を得るために、高揚効果をもたらす成分を見出し、この成分を有効量組成物に配合することが必要であった。このような背景から、例えば特開平 1-254629 号公報には、高揚効果があると伝承されるレモン油の減圧蒸留したある分画成分に意識水準を高揚させる効果があり、しかもこれを香料などに有効量添加して気化吸引させることによっても効果が発現することが報告されている。また、特開平 6-172781 号公報には、完全な単一化合物である 1, 3-ジメトキシ-5-メチルベンゼンに鎮静効果があり、これを有効量含む香料組成物にも鎮静効果があることが報告されている。

【0005】しかしながら、未だ優れた高揚効果をもたらす単一の化合物はあまり知られておらず、香りの嗜好性も考えるとより多くの香気成分を見出し、これを有効量配合することにより優れた高揚効果を発揮する高揚剤及び高揚香料組成物を開発することが要望されている。本発明は前記従来技術の課題に鑑みなされたものであり、その目的はより高揚効果に優れた高揚剤、及び高揚香料組成物を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために本発明者らは鋭意検討を行った結果、アニス (Pimpinella anisum) の精油に含まれる 1 成分であるアニスアルデヒドを有効量配合した組成物に優れた高揚効果があることを見出した。また、このアニスアルデヒドに特定の香料を組合せて配合すると、高揚効果がさらに高まることを見出し本発明を完成するに至った。すなわち本発明にかかる高揚剤は、アニスアルデヒドからなることを特徴とする。

【0007】また、本発明にかかる高揚香料組成物は、アニスアルデヒドを有効成分とすることを特徴とする。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、アニスアルデヒドの含有量が、全組成物中、0.01重量%

以上、50重量%以下であることが好適である。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、アニスアルデヒドの含有量が、香料成分中、1重量%以上、50重量%以下であることが好適である。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、さらにシンナミックアルデヒド、アネトール、オイゲノール、カルボン、ヘリオトロピンから選ばれる1種または2種以上を含むことが好適である。

【0008】また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、アネトールを含有し、アニスアルデヒドとアネトールの配合重量比が、1:10~1:1であることが好適である。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、オイゲノールを含有し、アニスアルデヒドとオイゲノールの配合重量比が1:10~1:1であることが好適である。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、シンナミックアルデヒドを含有し、アニスアルデヒドとシンナミックアルデヒドの配合重量比が1:10~1:1であることが好適である。

【0009】また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、さらにシナモン、スターアニス、クローブ、キャラウェイから選ばれる1種または2種以上の香料を含むことが好適である。また、本発明にかかる高揚香料組成物においては、さらにペッパー、カルダモン、ナツメグから選ばれる1種または2種以上の香料を含むことが好適である。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の構成をさらに詳細に説明する。本発明において、高揚効果とは、例えばヒトまたは動物が日常生活で経験する眠気、疲労感、情気などの生理的心理状態から開放し、気分を爽快にするとともに精神活動を活発化させる効果を意味する。また、本発明でいう高揚剤および高揚香料組成物は、有効成分が吸入され、嗅覚受容体を刺激もしくは経気道的に体内に吸収されることにより高揚効果を発現する気化吸引用のものである。

【0011】なお、本発明の配合量の表記において、「香料成分中」という表記を以下用いているが、「香料成分中」というのは香料組成物から溶媒や担体等、香氣成分ではない物質を除いた香料成分中ということの意味する。本発明において特徴的なアニスアルデヒド、すなわちp-メトキシベンズアルデヒドは、力強く甘く、かすかなクレゾール臭のある枯れ草香氣を有する香料として市販されているが、もちろん天然精油から単離精製したものも用いることができる。天然精油としては例えばアニス油やスターアニス油等が挙げられ、アニス油、スターアニス油は通常香料成分中0.5重量%程度のアニスアルデヒドを含有している。本発明の高揚剤はこのアニスアルデヒドからなり、本発明の高揚香料組成物はアニスアルデヒドを有効成分として含有するものである。

【0012】本発明にかかるアニスアルデヒドは単独でも強い香りを有しているが、単独では香氣があまり良くないため、他の香料と組み合わせて香料組成物として用いるほうが嗜好性が高くなるのでそのほうが好ましい。香料組成物の香料成分中におけるアニスアルデヒドの含有量は使用目的などを考慮して適宜決定すればよいが、通常は1~50重量%、好ましくは1~20重量%が適当である。含有量が1重量%以上において有効な高揚効果を発現することができ、また50重量%を越える量を含有させても構わないが高揚効果としては特に顕著な効果の向上が認められず、他の香料とのバランスおよび香氣の嗜好性を考慮するとこれ以上加えることは好ましくない。とくに嗜好性という観点からは1~20重量%が最も好ましく、この配合量で充分高揚効果を発揮できる。

【0013】また、アニスアルデヒドの配合量を全組成物中の含有量で示すならば、0.01~50重量%である。0.01重量%より少ないと十分な高揚効果が得られないことがあり、50重量%を越えて配合しても構わないが高揚効果としては特に顕著な効果の向上が認められず、香氣の嗜好性を考慮するとこれ以上加えることは好ましくない。

【0014】本発明の高揚香料組成物には、有効成分であるアニスアルデヒドの他にシンナミックアルデヒド、アネトール、オイゲノール、カルボン、ヘリオトロピンから選ばれる1種または2種以上を組み合わせることで、高揚効果に相乗的な向上をもたらすことができる（以下、「高揚相乗効果」という）。これら化合物は合成香料として市販されている。

【0015】これら化合物を組み合わせる場合、化合物の種類にもよるが香料成分中概ね1~20重量%が好ましい。1重量%より少ないと高揚相乗効果が得られないことがあり、20重量%を越えて配合しても効果の向上がそれ程見られない傾向がある。

【0016】また、アネトール、オイゲノール、シンナミックアルデヒドを選択する場合、相乗的な高揚効果をもたらす配合重量比がある程度存在する。例えばアネトールを選択する場合、アニスアルデヒドとアネトールの配合重量比が1:10~1:1であることが好適である。また、オイゲノールを選択する場合、アニスアルデヒドとオイゲノールの配合重量比が1:10~1:1であることが好適である。また、シンナミックアルデヒドを選択する場合、アニスアルデヒドとシンナミックアルデヒドの配合重量比が1:10~1:1であることが好適である。これらの配合重量比の範囲を外れても高揚効果は得られるが、アニスアルデヒドに特定化合物を組み合わせた高揚相乗効果は得られないことがある。

【0017】また、本発明の高揚香料組成物には、有効成分であるアニスアルデヒドの他にシナモン、スターアニス、クローブ、キャラウェイ、ペッパー、カルダモ

ン、ナツメグから選ばれる1種または2種以上の香料を組み合わせることで配合することによっても、高揚相乗効果をもたらすことができる。これらは通常の香料として市販されている。高揚相乗効果をもたらすことができる各香料は、通常の精油で問題なく特に制限はないが、これらの香料を簡単に説明すればつぎようになる。

【0018】シナモンは、錫蘭肉桂<セイロンニッケイ>とも称され、本発明においては例えばクスノキ属のシナモン (*Cinnamomum zeylanicum*) の樹皮または葉から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。スターアニスは、大茴香<ダイウイキョウ>、八角茴香、トウシキミとも称され、本発明においては例えばシキミ属のスターアニス (*Illicium verum*) の果実から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。

【0019】クローブは、丁子<チョウジ>、丁香<チョウコウ>とも称され、本発明においては例えばアデク属のクローブ (*Syzygium aromaticum* (L.) または *Eugenia caryophyllata* Thunb.) の開花直前の蕾から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。キャラウェイは、ヒメウイキョウとも称され、本発明においては例えばセリ科の (*Carum carvi*) の果実から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。

【0020】ペッパーは、胡椒<コショウ>とも称され、本発明においては例えばコショウ属のペッパー (*Piper nigrum* L.) の果実から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができ、白胡椒、黒胡椒ともに用いることができる。カルダモンは、カルダモームとも称され、この種子はショウズク、ビャクズクと呼ばれている。本発明においては例えばエレタリア属のエレタリア・カルダモム (*Elettaria cardamomum* Maton) の果実から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。

【0021】ナツメグは、ニクズク、メースとも称され、本発明においては、例えばニクズク科のナツメグ (*Myristica fragrans*) の果実から水蒸気蒸留により得られる精油を用いることができる。上記香料のうち、シナモンはシンナミックアルデヒドを、スターアニスはアネトールを、クローブはオイゲノールを、キャラウェイはカルボン酸を、それぞれ主成分として含有している。

【0022】また、その他の高揚相乗効果をもたらすことができる香料としてジャスミン、カーネーション、エストラゴン、バジル、カスカリラ、ピメントベリー、ジンジャー、カラムス、クミンを挙げることができる。上記高揚相乗効果をもたらすことができる香料の香料成分中の配合量は香料の種類により異なるが概ね1~20重量%が好ましい。この配合量の範囲を外れると、高揚相乗効果が得られないことがある。

【0023】本発明の高揚香料組成物は、前記有効成分であるアニスアルデヒドや高揚相乗効果をもたらすことができる香料とともに、必要に応じて補助成分と組み合

わせて香水、コロン、シャンプー・リンス類、スキンケア用品、ボディーシャンプー、ボディーリンス、ボディーパウダー類、芳香剤、消臭剤、浴剤などに用いられる。

【0024】

【実施例】以下、本発明にかかる高揚剤及び高揚香料組成物の好適な実施例を説明する。なお、本発明は、これらに限定されるものではない。まず、本発明で採用した試験方法について説明する。随伴性陰性変動 (Contingent Negative Variation 以下、CNV) と呼ばれる陰性の電位の変化を測定した。CNVは注意、期待、予期などの心的過程、また意識レベルの変動と関連する脳の緩徐な電位変動である。

【0025】目的とする香料を検索するための実験では、警告刺激音から2秒後に運動の開始を意味する光信号が続き、光を認識すると同時にボタン押しの運動反応が要求される。この一連の繰り返しのうち、香りの試料は鼻先約10cm先に設置されており、呼吸に伴い常に香りを認知することができる。CNV測定のための電極は前頭部に装着され、耳朵との間の電位記録が測定される。高揚効果を示すカフェインを投与した場合、CNVの振幅が増大し、鎮静効果を示すニトロゼパムを投与した場合にはCNVの振幅は減少することが報告されている。

【0026】これらの変動は音刺激後400~1000 msecの初期成分に顕著に現れる。この区間の変動面積をブランク (無臭刺激) を100%として比較した百分率 (%) で表す。なお、香りはラテン方格に従って提示している。100%以上の場合は高揚効果が、100%以下の場合には鎮静効果があることを表している。多くの天然精油について随伴性変動を用いて精査した結果、精油に鎮静効果と高揚効果を有するものがあることが判っている。

【0027】本発明の効果確認

本発明にかかるアニスアルデヒドと、鎮静効果があるとされる化合物1, 3-ジメトキシ-5-メチルベンゼン (以下、「DMB」とする) と、その他天然精油であるレモンオイル、ペッパーオイル、カルダモンオイル、ナツメグオイル、キャラウェイオイル、スターアニスオイル、クローブオイル、シナモンオイルをそれぞれ1%エタノール溶液とし、前記CNVに対する影響を測定した。すなわち、健康な成人女性5名を被験者として前記方法により試験を行った。結果を図1に示す。同図より明らかなように、レモンオイルには伝承通りの高揚効果が確認され、DMBには特開平6-172781号公報にある通り鎮静効果が確認された。またペッパーオイル、キャラウェイオイル、スターアニスオイル、クローブオイルには高揚効果が認められた。そしてナツメグオイルには高揚、鎮静のいずれも確認されず、シナモンオイルには若干鎮静作用が見られ、カルダモンオイルには

明らかな鎮静効果があることが確認された。そして、本発明にかかるアニスアルデヒドには、従来高揚効果があるとされるレモンオイルと比較しても極めて強い高揚効果を示していることが確認された。

【0028】次に本発明にかかるアニスアルデヒドを香料組成物を組み合わせた場合に高揚効果がどのように変化するかを前記CNVに対する影響を見ることにより測定した。試料はアニスアルデヒドを含まない香料組成物*

*と、アニスアルデヒドを0.05重量%含む香料組成物と、アニスアルデヒドのみ0.1重量%含むそれぞれのエタノール溶液について測定した。なお、ここでいう含有量は溶媒を含んで算出したものである。詳細な組成を表1に示す。

【0029】

【表1】

	比較例 1	実施例 1	実施例 2
カシスベース	0.015	0.015	—
シス-3-ヘキセノール	0.02	0.02	—
シトロネロール	0.15	0.15	—
エチルリナロール	0.25	0.25	—
イランイラン油	0.015	0.015	—
メチルジヒドロジャスモネート	1	1	—
α -ヘキシルシンナミックアルデヒド	0.15	0.15	—
メチルイオノン	0.15	0.15	—
3-シクロヘキセン-1-カルボキシルアルデヒド	0.6	0.6	—
ヘリオナール	0.1	0.1	—
ジャスミンアブソリュート	0.015	0.015	—
ローズ油	0.01	0.01	—
ローズベース	0.1	0.1	—
ミュゲベース	0.225	0.225	—
ヒヤシンスベース	0.15	0.15	—
ストラリルアセテート	0.025	0.025	—
レッドベリー油	0.025	0.025	—
7-エチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロ-1,1,6,7-テトラメチルナフタレン	0.15	0.15	—
セドレニルメチルケトン	0.2	0.2	—
スターアニス油	0.05	0.05	—
1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロヘキサン-2-オール	1	1	—
エチレンブラシレート	0.5	0.5	—
3 α ,6,6,9 α -テトラメチルデカステレン	0.05	0.05	—
アニスアルデヒド	0	0.05	0.1
エタノール	95.05	95.0	99.9
合計	100	100	100
アニスアルデヒドの香料成分中の含有量(重量%)	0	1	100

【0030】CNV測定結果を図2に示す。図2よりわかるように、アニスアルデヒド単独の実施例2よりも、香料組成物とアニスアルデヒドを組み合わせた実施例1の方が、より高揚効果に優れることがわかる。また、実施例1には実施例2の半分の量のアニスアルデヒドしか配合されておらず、香料組成物のみの比較例1には目立った高揚効果がないことから考えて、アニスアルデヒド

と比較例1の香料組成物を組み合わせることによる相乗効果が認められるといえる。したがって、本発明にかかるアニスアルデヒドは何等かの香料と組み合わせて香料組成物として用いると高揚効果を増強することができることが理解される。

【0031】アニスアルデヒドの有効量

つぎに本発明者らは、本発明にかかるアニスアルデヒド

の有効量について検討した。試料は、アネトール、0.5重量%のアニスアルデヒドを含むアネトール、1重量%のアニスアルデヒドを含むアネトール、5重量%のアニスアルデヒドを含むアネトールについてそれぞれ1重*

* 量%の香料を含むエタノール溶液を調製して、CNVに対する影響を測定した。その結果を表2に示す。

【0032】

【表2】

アニスアルデヒド香料成分中含有量 (重量%)	CNV測定値 (%)
0	108
0.5	118
1	136
5	138

【0033】上記表の結果より、本発明にかかるアニスアルデヒドの香料成分中の有効量は1重量%以上であることがわかる。したがって、天然のアニス油やスターアニス油は多くても0.5重量%しかアニスアルデヒドが含まれていないので、本発明でいうような優れた高揚効果を得ることはできないことがわかる。

【0034】香料との組み合わせ

つぎに、本発明者らは、アニスアルデヒドとどのような香料（天然組成物）を組み合わせると高揚相乗効果を生じるかについて試験を行った。試料は、①組合せ対象香※

香気の評価基準

- ◎ … 20人中18人以上が香りに対して嗜好性を示した
- … 20人中11～17人が香りに対して嗜好性を示した
- △ … 20人中6～10人が香りに対して嗜好性を示した
- × … 20人中5人以下が香りに対して嗜好性を示した

結果を次の表に示す。

【0036】

【表3】

香料名	高揚相乗効果	香気の評価
シナモン	有り	◎
スターアニス	有り	◎
クローブ	有り	○
キャラウェイ	有り	○
ペッパー	有り	○
カルダモン	有り	△
ナツメグ	有り	○

【0037】上記結果より、上記に示される香料とアニスアルデヒドを組み合わせた香料組成物にはいずれにも高揚相乗効果が認められた。中でもペッパーとクローブには強い高揚相乗効果が認められた。また、単独では高揚効果の認められないナツメグやむしろ鎮静効果が認められるカルダモンやシナモンを組み合わせても高揚相乗★

※料1重量%、②アニスアルデヒド0.1重量%（前記実施例2）、③対象香料0.5重量%およびアニスアルデヒド0.05重量%のエタノール溶液として、それぞれCNV測定値(%)を出し、③の値が①および②の値を共に越えた場合高揚相乗効果有りと判定した。なお、ここでは溶媒を計算に入れた含有量で示している。また、香気の嗜好性の評価についても行った。評価基準は次の通り。

【0035】

★効果があることから考えて、アニスアルデヒドと組み合わせる香料が高揚か鎮静かにはそれ程関係ないことがわかる。ただし、高揚相乗効果を得るにはアニスアルデヒドが香料成分中有効量配合されていなければならない。

【0038】つぎに、本発明者らは、アニスアルデヒドとどのような香料成分を組み合わせると高揚相乗効果を生じるかについて試験を行った。試料は、①組合せ対象香料1重量%、②アニスアルデヒド0.1重量%（前記実施例2）、③対象香料0.5重量%およびアニスアルデヒド0.05重量%のエタノール溶液として、それぞれCNV測定値(%)を出し、③の値が①および②の値を共に越えた場合高揚相乗効果有りと判定した。なお、ここでは溶媒を計算に入れた含有量で示している。また、香気の嗜好性の評価についても行った。評価基準は前記の通り。結果を次の表に示す。

【0039】

【表4】

香料成分名	高揚相乗効果	香気の評価
シンナミックアルデヒド	有り	◎

アネトール	有り	◎
オイゲノール	有り	○
カルボン	有り	◎
ヘリオトロピン	有り	◎

【0040】上記結果より、上記に示される特定香料成分とアニスアルデヒドを組み合わせた香料組成物にはいずれにも高揚相乗効果が認められた。中でもオイゲノールには強い高揚相乗効果が認められた。

【0041】アニスアルデヒドと特定香料成分との配合重量比

つぎに、本発明者らは、アニスアルデヒドと上記高揚相乗効果をもたらすことができる特定香料成分を組み合わせた場合、どの程度の量比で高揚相乗効果が生じるかについて試験を行った。試料は、アニスアルデヒドの濃度*

※を1重量%で固定し、組合せ対象香料を増減してそれぞれの重量比でのCNV測定値を出した。高揚相乗効果の判定はアニスアルデヒド1重量%のCNV測定値と比較し、高い場合高揚相乗効果ありと判定した。香料成分としては、アネトール、オイゲノール、シンナミックアルデヒドについて試験を行った。なお、ここでは溶媒を計算に入れた含有量で示している。結果を次の表に示す。

【0042】

【表5】

香料成分名	配合重量比 (アニスアルデヒド：香料成分)	高揚相乗効果
アネトール	1：0.5	無し
	1：1	有り
	1：5	有り
	1：10	有り
	1：20	無し
オイゲノール	1：0.5	無し
	1：1	有り
	1：5	有り
	1：10	有り
	1：20	無し
シンナミックアルデヒド	1：0.5	無し
	1：1	有り
	1：5	有り
	1：10	有り
	1：20	無し

【0043】上記結果より、アニスアルデヒドと特定香料成分を組み合わせる場合、その配合比率は、アニスアルデヒド：アネトールで約1：1～1：10、アニスアルデヒド：オイゲノールで約1：1～1：10、アニス※

※アルデヒド：シンナミックアルデヒドで約1：1～1：10が好適であることがわかる。以下、さらに本発明の実施例について記載する。

【0044】

実施例3：高揚香料組成物

レモン油	5重量部
ベルガモット油	10
シトロネロール	5
フェニルエチルアルコール	3
ベンジルアセテート	3
メチルジヒドロジャスモネート	20
α-ヘキシルシンナミックアルデヒド	5
ヘキシルサリシレート	5
シス-3-ヘキセニルサリシレート	4
リリーアル	3

13	
ローズベース	4. 5
ミュゲベース	4. 0
ジャスミンアブソリュート	0. 3
ローズ油	0. 2
クローブ油	1. 0
ペッパー油	1. 0
アニスアルデヒド	1
セドレニルメチルケトン	10
ヘリオトロピン	1
クマリン	3
エチレンブラシレート	10
3 α , 6, 6, 9 α -テトラメチルドデカナストフテン	1
合計	100

【0045】

実施例4：高揚香料組成物

レモン油	12重量部
オレンジ油	2
ベルガモット油	25
ネロリ油	2
プチグレンビガラード	1
メチルジヒドロジャスモネート	20
α -ヘキシルシンナミックアルデヒド	6
ゼラニウム油	2
ローズマリー油	2
ラベンダー油	3
ジヒドロミルセノール	8
バジル油	2
エストラゴン油	1
アニスアルデヒド	2
クマリン	2
エチレンブラシレート	5
3 α , 6, 6, 9 α -テトラメチルドデカナストフテン	2
サンダルウッド油	2
オークモス	1
合計	100

【0046】

実施例5：高揚香料組成物

カッシスベース	0. 3重量部
シス-3-ヘキセノール	0. 4
シトロネロール	3
エチルリナロール	5
イランイラン油	0. 3
メチルジヒドロジャスモネート	20
α -ヘキシルシンナミックアルデヒド	3
メチルイオノン	3
3-シクロヘキセン-1-カルボキシアルデヒド	12
ヘリオナール	2
ジャスミンアブソリュート	0. 3

15	
ローズ油	0.2
ローズベース	2
ミュゲベース	4.5
ヒヤシンスベース	3
スチラリルアセテート	0.5
レッドベリー油	0.5
7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロ-	
1,1,6,7-テトラメチルナフタレン	3
セドレニルメチルケトン	4
アニスアルデヒド	1.0
スターアニス油	1.0
1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-	
ヘキサメチルシクロヘキサン-2-ベシラソ	2.0
エチレンブラスレート	1.0
3 α ,6,9 α -テトラメチルドデカナストフテン	1
合計	100

【0047】

実施例6：浴剤

炭酸水素ナトリウム	70重量部
無水硫酸ナトリウム	28.8
実施例3の高揚香料組成物	1
色素Y-202-1	0.2

香料を除いた成分をV型ミキサーにて均一になるまで攪拌した後、高揚香料組成物を加え、さらに均一になるまで充分に攪拌して浴剤を得た。

【0048】

実施例7：ゲル芳香剤

カラギーナン	3.0重量部
プロピレングリコール	2.0
プロピルパラベン	0.3
実施例3の高揚香料組成物	5.0
水	89.7

カラギーナン、プロピレングリコール及びプロピルパラベンを混合して攪拌しながら水を加え、これを穏やかに攪拌しながら約80℃になるまで加熱した。その後、約65℃とし、これをホモジナイザーを用いて3000rp※で攪拌しながら高揚香料組成物を加えて均一な相とした後、所定の容器に流し込み、自然冷却して芳香剤を得た。

【0049】

実施例8：リキッドタイプ芳香剤

95%エタノール	25.0重量部
界面活性剤	5.0
実施例3の高揚香料組成物	3.0
水	67.0

水を除く各成分を混合し、穏やかに攪拌しながら水を加え、均一にして芳香剤を得た。なお、界面活性剤としてポリオキシエチレンノニルフェニルエーテルEO-13★を用いた。

【0050】

実施例9：リキッドタイプ消臭剤

消臭原液FS-500M（白井松新薬株式会社製）	5.0重量部
95%エタノール	10.0
界面活性剤	10.0
1%アニスアルデヒド（エタノール溶液）	10.0
水	65.0

水以外の各成分を混合し、穏やかに攪拌しながら水を加えて消臭剤（リキッドタイプ）を得た。なお、界面活性

剤としてポリオキシエチレンニルフェニルエーテルE
O-10を用いた。 * 【0051】

実施例10：エアゾールタイプ

消臭原液FS-500M	5.0重量部
95%エタノール	20.0
1%アニスアルデヒド（エタノール溶液）	10.0
水	40.0
液化石油ガス（4.0kg/cm ² 20℃）	25.0

液化石油ガス以外の成分を混合、撹拌して均一とし、所定の量をエアゾール容器に入れてバルブを取り付けた後、液化石油ガスを注入して消臭剤（エアゾールタイプ）を得た。

【0052】

【発明の効果】以上説明したように本発明にかかる高揚剤及びそれを配合した高揚香料組成物によれば、アニスアルデヒドを有効成分とするので、従来知られているレモンとは異なる香りを有し、しかも極めて高い高揚効果をもつ。そしてそれらを気化、吸引させるのみで高揚効果が得られ、使用者に身体的、心理的負担をかけるおそ※

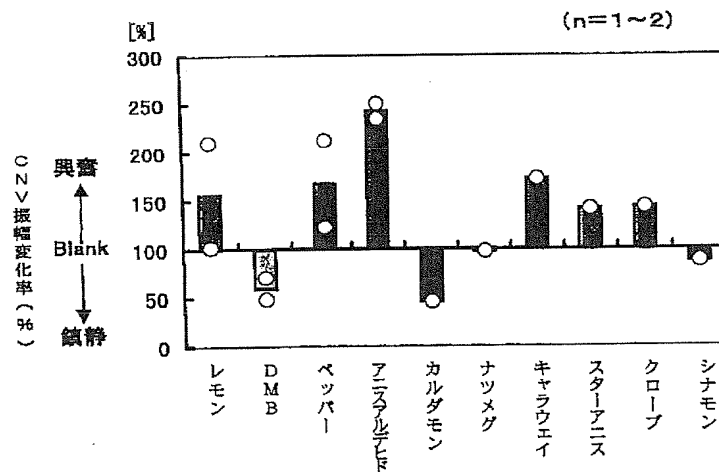
※れない。また、本発明にかかる高揚香料組成物は、アニスアルデヒドと特定の香料成分あるいは香料組成物と組み合わせることにより、相乗的に高い高揚効果が得ることができる。

【図面の簡単な説明】

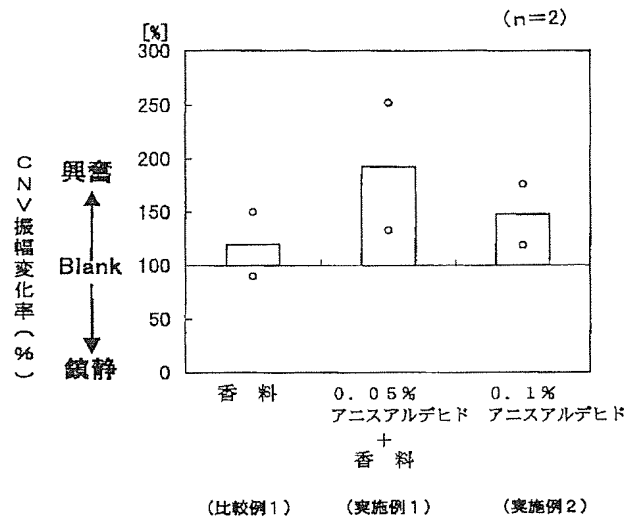
【図1】本発明にかかるアニスアルデヒドと、その他の香料についてのCNV測定結果を示す説明図である。

【図2】本発明にかかるアニスアルデヒド及び香料組成物と、他の比較例についてのCNV測定結果を示す説明図である。

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	タームコード [*] (参考)
A 6 1 K 7/46	3 4 5	A 6 1 K 7/46	A
	3 5 5		3 4 5 Z
	3 7 1		3 4 5 B
A 6 1 P 25/24		A 6 1 P 25/24	3 5 5 G
			3 7 1
(72) 発明者 田口 澄恵		F ターム (参考)	4H059 BA15 BA17 BA20 BA23 BB13
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株			BB14 BB18 BB19 BB23 BB43
式会社資生堂第一リサーチセンター内			BB45 BC23 CA51 DA09 EA40